

磯辺公民館だより

つどい・まなび・つなぐ

磯辺公民館

TEL278-0033

令和元年6月

元号が代わり1か月が経ちました。令和という美しい響きに心新たに、スタートした方々は数多くいらっしゃったのではないのでしょうか。

さて、空には、時折白い夏雲が浮かぶような季節になってきました。この時期は空模様が大変気になる季節です。この気候とも重なって心身ともに疲れを感じてはいませんか。梅雨時のじめじめとした感触は何とも不快なものであり、夏の真っ青な空を待ち望む心持ちになるのは、きっと私だけではないでしょう。ただ、考え方を変えれば万物を育てる雨が大地を潤し、生命を育てていく季節ともいえます。私の田舎の南房総館山では、この時期、水の張られた田んぼの水面に稲の緑がまぶしく輝いています。そんな光景を見ると、命の息吹を感じ、爽やかな気持ちになります。



少し前の田植えの時期には、早苗という言葉思い出します。「早」は早い時期、若い時という意味を持っています。苗代で育てられた早苗というのは、田んぼに植えられる前のまだ幼い稲の苗のことです。稲の苗は田植えの時期になるまでの一か月半ほどは苗代で育てられ、その後のための準備をします。風雨に耐えながらも心地よい空気と水をいっぱい吸って、育ちゆくためのエネルギーを自らに充満していくのです。そして、すくすくと緑に成長した早苗はさらに広い場所に成長の場を変え、実りに至るまでの新しい歩みを始めることとなります。この早苗の時期は、幼少年時代に置き換えられないのでしょうか。早苗の姿を見ていると、早苗という義務教育を卒業して、広い場所である田んぼという社会で自身の成長を図っていくというようにダブって見えてきます。早苗の時期の幼い時代に、社会に出て必要となるであろう力をしっかりと身につけ、子ども達一人一人を大切に育てていくことは、学校や家庭教育だけではなく、地域社会の務めでもあるのではないのでしょうか。そのことが公民館としての合言葉にある「つどい・まなび・つなぐ」ことにつながってゆくのではないのでしょうか。

元号が令和に変わった今だからこそ、地域で支え合い、多くの方々のお力をお借りし、子ども達にたっぷりと栄養分を与え、未来社会の宝物を見守り、育てていこうではありませんか。

やがて子ども達一人一人が、私の目に焼き付いている南房総館山の秋の田園風景のように、黄金色に輝く稲穂となってくれることを願ってやみません。

磯辺公民館長 川 上

主催行事

5月11日（土）に、こどもの土曜日 1 アートフラワー「母の日のカーネーション作り」を行いました。受講者たちは熱心に、世界に一つしかない作品を心を込めて作成していました。



4月の公民館だよりを発行して

公民館だよりを発行してまもなく、こんな問い合わせがありました。

「公民館だよりの裏のクラブ連絡協議会加盟サークルのことでお聞きしたいのですが、このサークルに加入するにはどうしたらいいのでしょうか」とか「見学をしたいのですができるのでしょうか」という問い合わせがありました。今回は第33地区町内自治会連絡協議会会長様等のお計らいで、公民館近隣の自治会に配布、回覧をさせていただきました。公民館だよりを読んでくださる方がいらっしゃることに喜びを感じながら、6月号を発行しました。

主催行事「今後の予定」

- ◇6月16日（日）子ども茶道入門教室「おもてなしの心にふれよう！」
申し込み開始 6/1（土）より
- ◇6月22日（土）こどもの料理教室
申し込み開始 6/8（土）より
- ◇7月 3日（水）知って得する暮らしの情報「老後のすみかの選択、生活設計」
申し込み開始 6/7（金）より

クラブ連絡協議会会長よりご挨拶

新しい年、令和元年の連協会長に選出された船倉と申します。この1年間公民館館長をはじめとした皆様方と新役員一丸となって、よりよい運営をめざしていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

